

# 2016-4-3 猫の皮膚

戸崎香織

提出機関：University of Minnesota, Veterinary Diagnostic Laboratory

症 例：猫 (*Felis catus*)、3才、不妊雌、室内飼い、短毛種

病 歴：幼猫の時から尾を咬む癖があり、尾と尾背部の脱毛及び皮膚炎を繰り返していた。

フルオキセチン、局所抗生物質、定期的なノミ予防による治療で奏功せず、デポメドロール及びセフォベチンの投与で悪化。

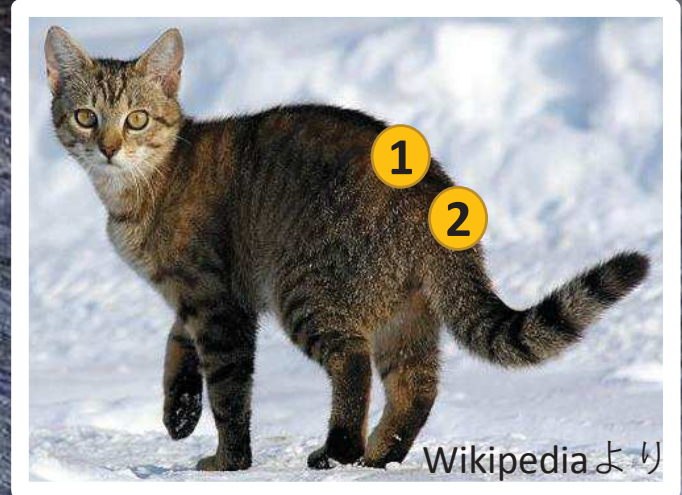
生検及び最初の診断後に断尾するも、3週間後に皮膚炎を再発したため安楽殺。

肉眼所見：尾背部2か所に褐色痂皮及び乾燥した赤褐色の滲出液を伴う潰瘍があった。



①頭側

…断尾手術との関連なし



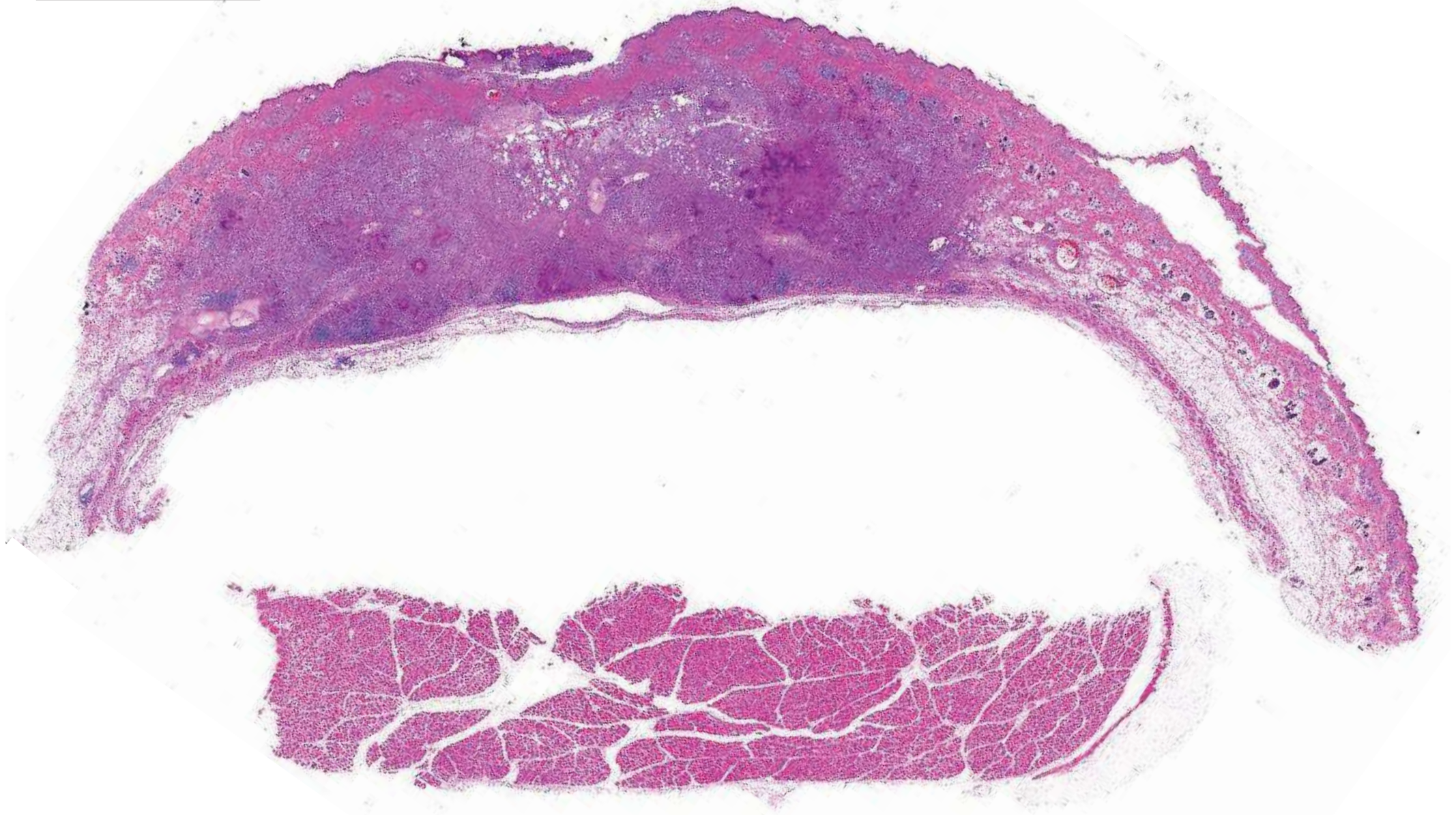
②尾側



# 切断面

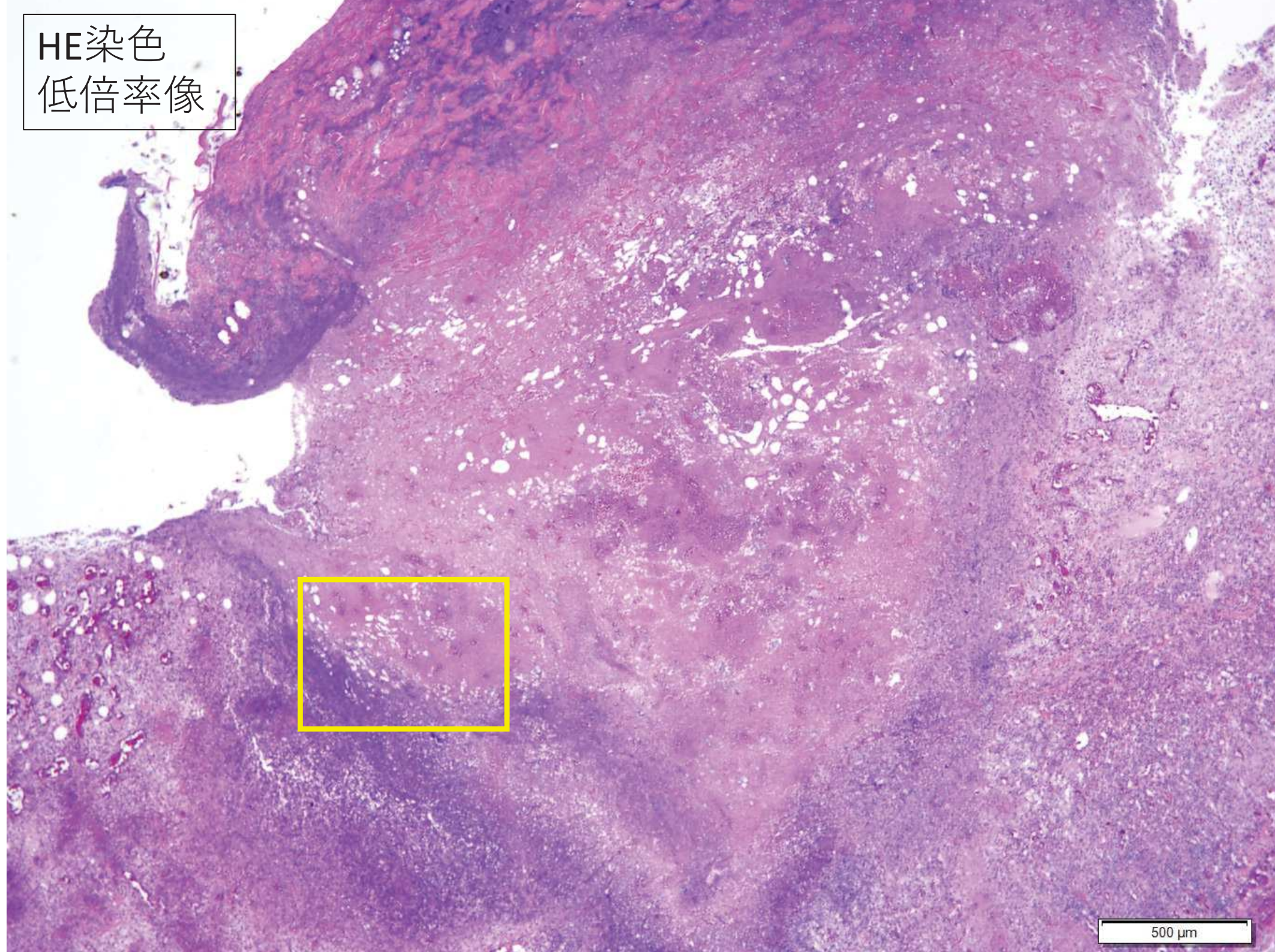


HE染色  
低倍率像





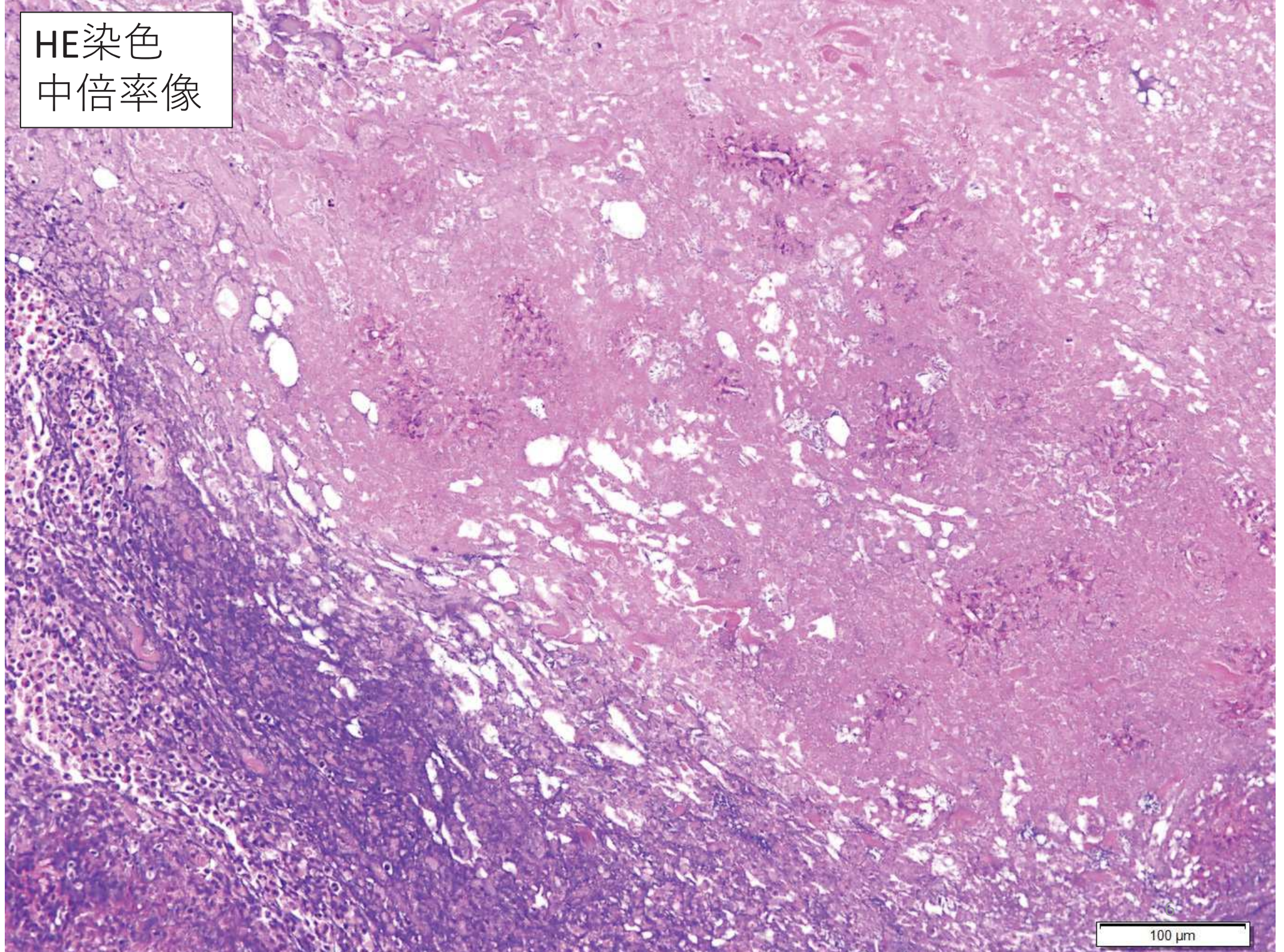
HE染色  
低倍率像



500  $\mu$ m



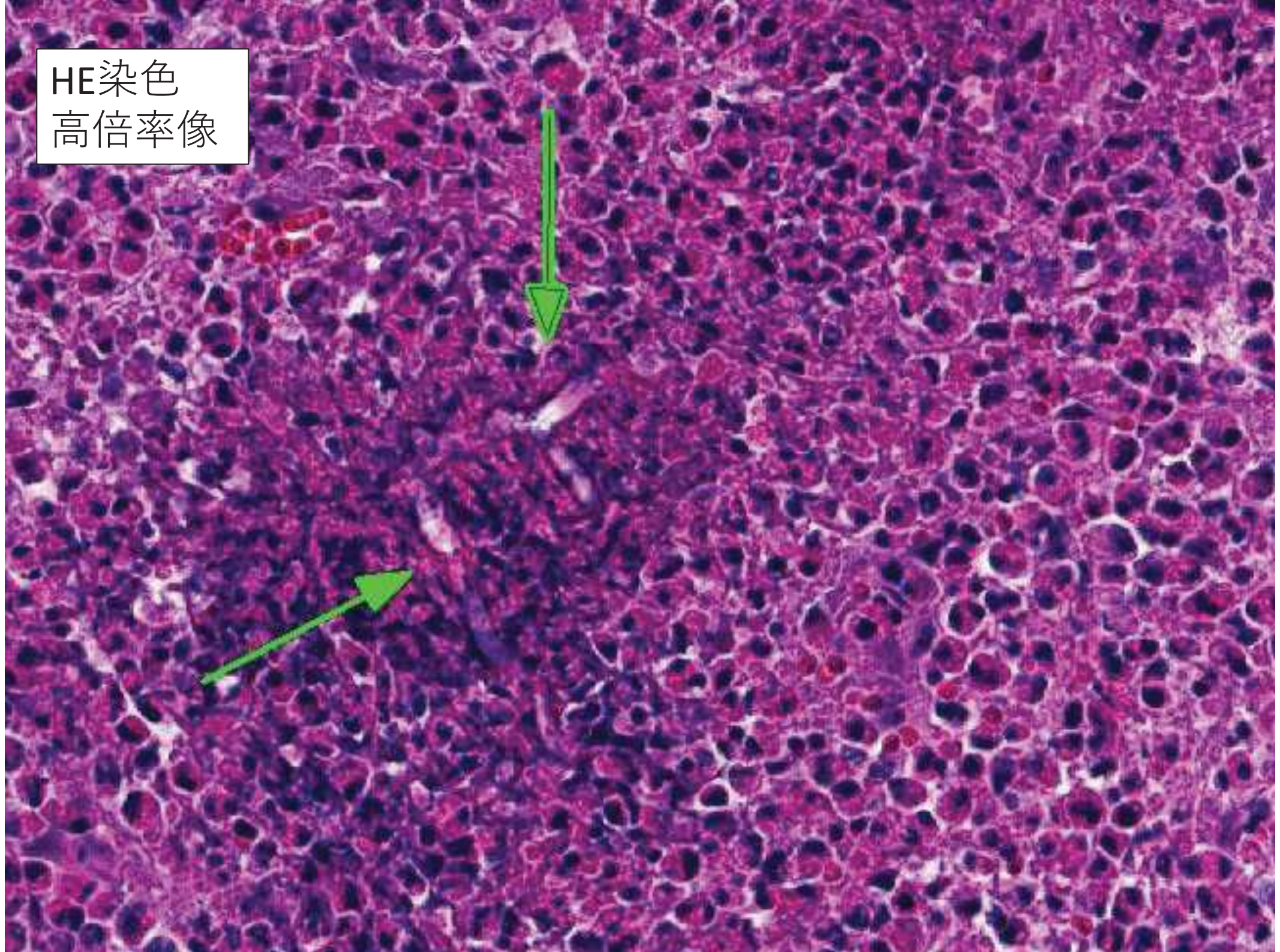
HE染色  
中倍率像



100  $\mu$ m

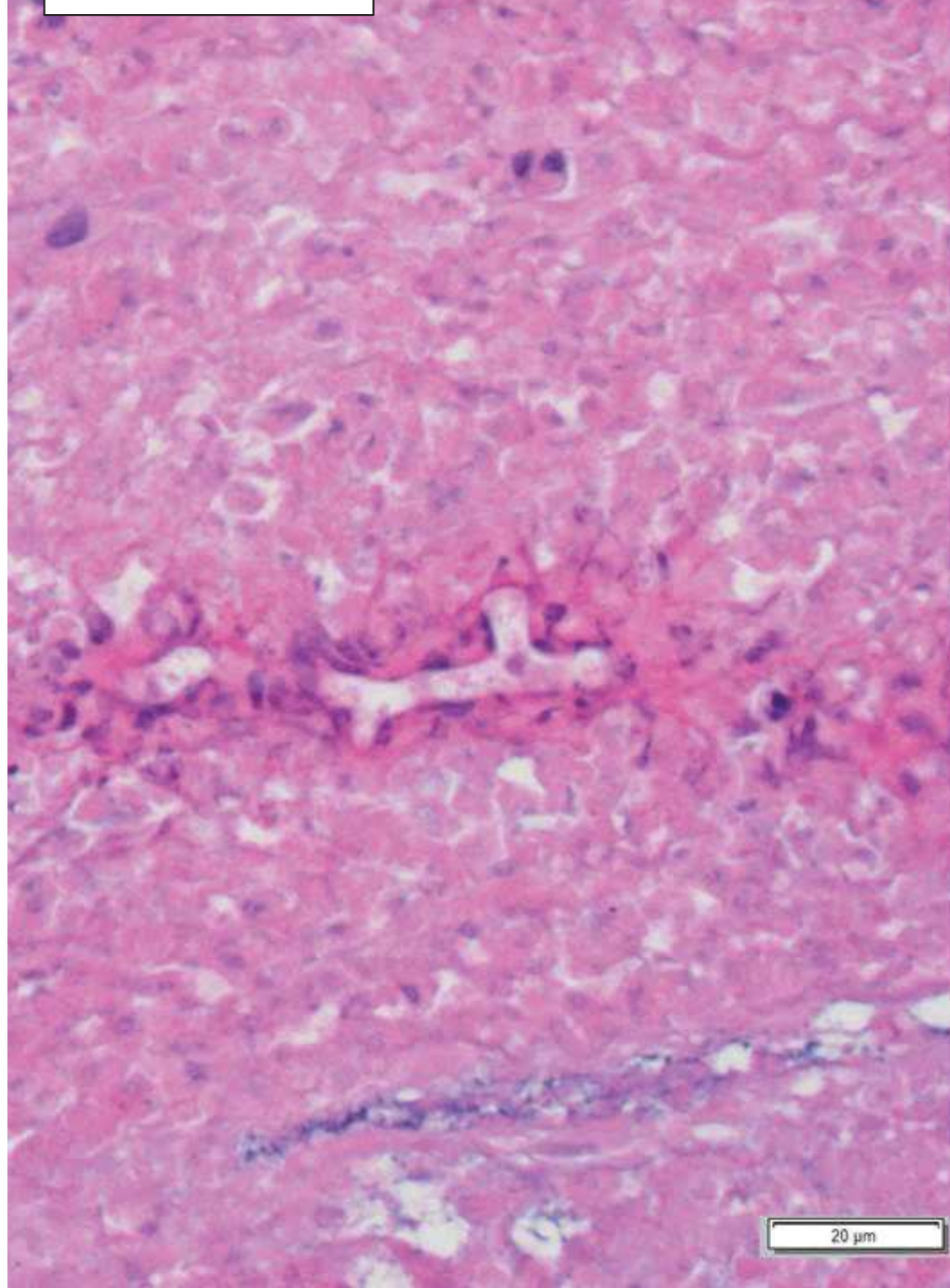


HE染色  
高倍率像

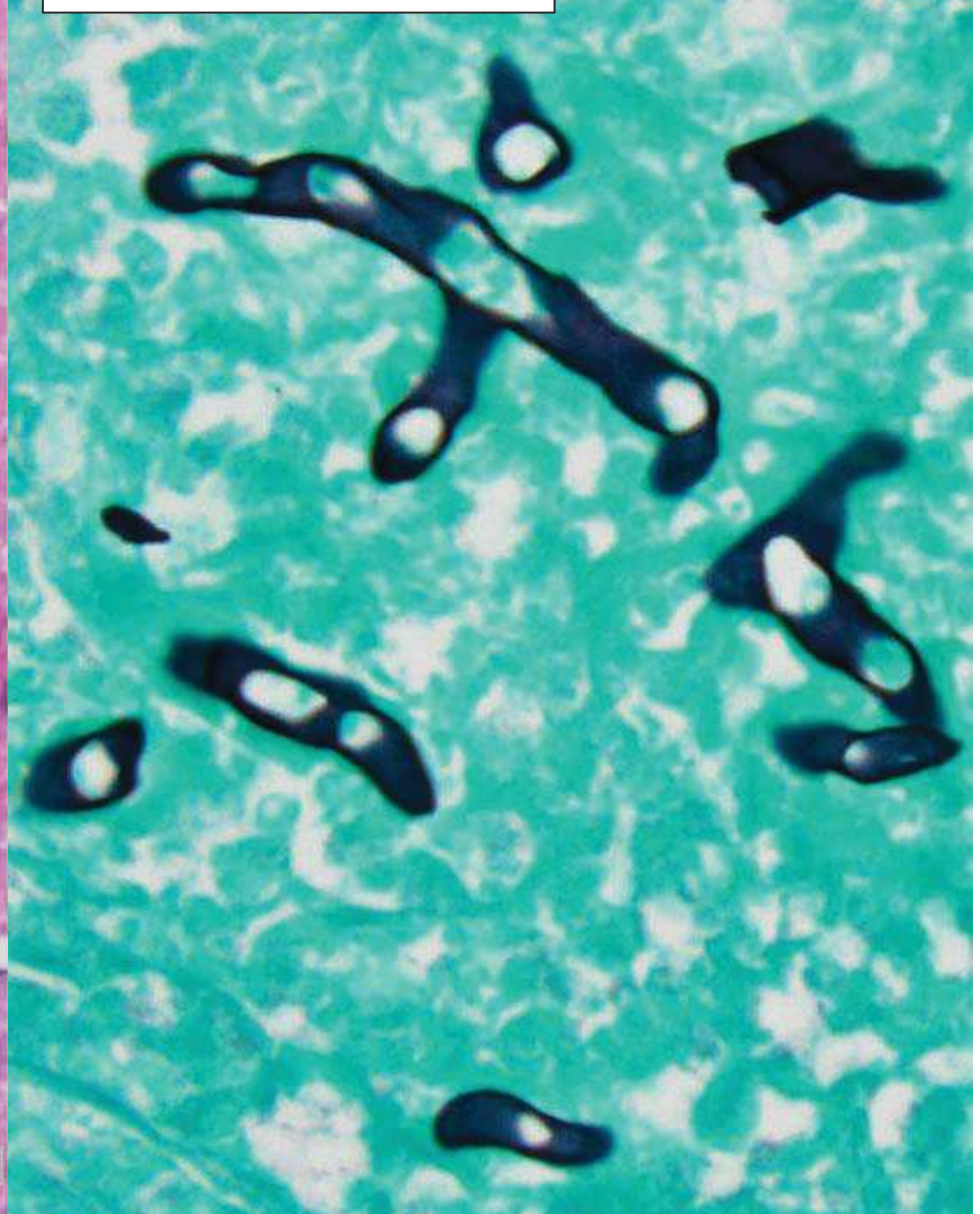




PAS染色  
高倍率像



グロコット染色  
高倍率像





## ラボの結果

生検と培養を実施した結果、水カビ（mold）であることが分かり、18s/ITS核酸増幅とシーケンスにより *Lagenidium* sp. と同定。

## 提出者の診断

- 1 皮膚、尾背部：皮膚炎、脂肪織炎、脂肪組織炎及び筋炎、好酸球性及び組織球性、リンパ形質細胞の浸潤を伴う、著しい、局所性に広範囲な、多発性の壊死と菌糸を伴い慢性
- 2 皮膚、尾背部：潰瘍、多発性、中程度から著しい、慢性

- 1 Skin, caudodorsum: Dermatitis, panniculitis, steatitis and myositis, eosinophilic and histiocytic, with lymphoplasmacytic infiltrates, marked, locally extensive, chronic with multifocal necrosis and hyphae
- 2 Skin, caudodorsum: Ulceration, multifocal, moderate to marked, chronic

## JPCの診断

被毛で覆われた皮膚及び皮下組織：皮膚炎、脂肪織炎、筋炎、好酸球性及び **肉芽腫性**、好酸球性、**巣状**の広範囲な、著しい、多発性の壊死を伴う、潰瘍、真菌の菌糸、室内飼いの短毛種、猫

Haired skin and subcutis: Dermatitis, panniculitis and myositis, eosinophilic and granulomatous, and eosinophilic, focally extensive, marked, with multifocal necrosis, ulceration, and fungal hyphae, domestic shorthair, *felis catus*.



## 提出者のコメント

- *Lagenidium* sp.は、ミズカビと呼ばれる卵菌類に分類され、*Pythium* sp.と近縁である。
- 卵菌類の生活環は真菌菌糸と形態学的に類似しているが、系統学的に真菌とは異なる。
- 細胞膜にはエルゴステロール（真菌の細胞膜に存在、抗真菌薬の標的）を欠く。
- 報告されているLagenidiosisの殆どは犬に関するもの
  - Lagenidium giganteum* ・ ・ ・ 内臓、リンパ節、大血管を含む広範な播種を伴う皮膚、皮下疾患
  - Paralagenidium karlingii* ・ ・ ・ 慢性の潰瘍性または結節性の皮膚炎

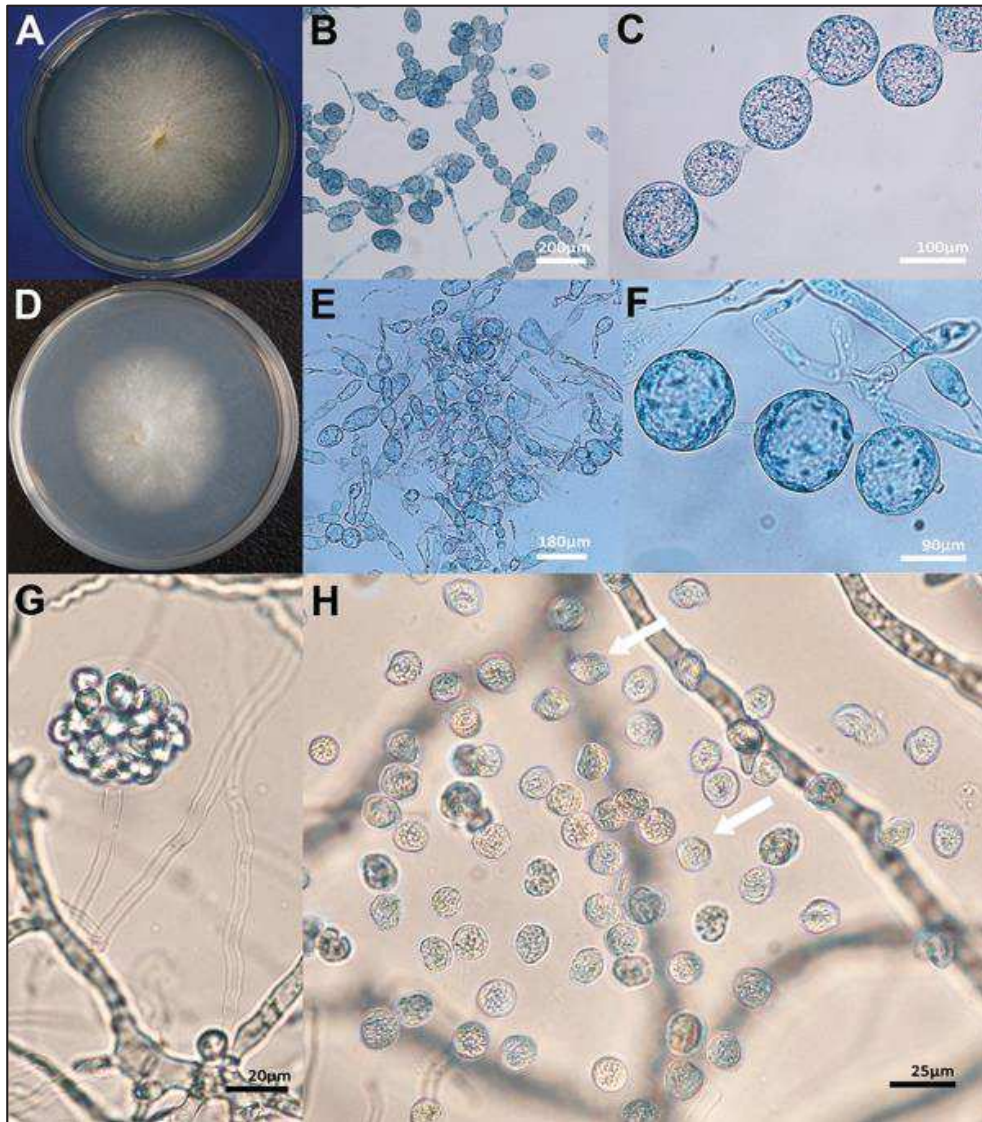
治療：広範囲の外科的切除

\* 菌の播種を伴うと予後不良、医学療法にはほとんど反応しない

類症鑑別：ピシウム感染症 pythiosis、接合菌症 zygomycosis

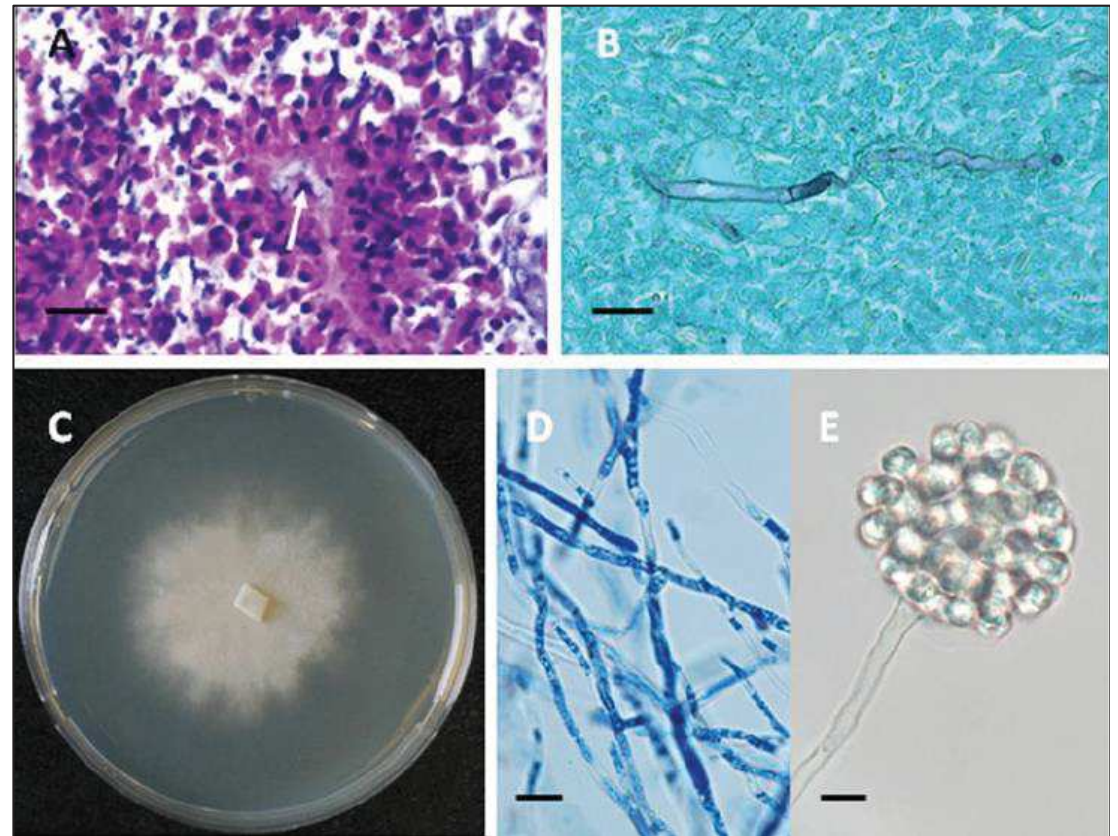


Lagenidium giganteum



Emerg Infect Dis. 2015, 21(2): 290-297

Pythium insidiosum



Curr Fungal Infect Rep. 2013, 7: 198-208



# 会議のコメント

## ***Lagenidium* sp.について**

- ・一般的に診断される卵菌症である *Pythium insidiosum* と地理的分布、臨床所見及び組織学的所見が著しく類似
- ・侵襲性が高く、犬では大血管、縦隔、肺、食道の病変が報告されているが、胃腸疾患の報告はない。

感染源：運動性の水生鞭毛遊走子を含む水

→毛、皮膚の創傷部位、腸粘膜に誘引

(卵菌の遊走子が被嚢し、組織内に侵入)

治療：外科手術、抗真菌薬は有効ではない

本症例は慢性活動性炎症の典型例



